

2025年9月25日

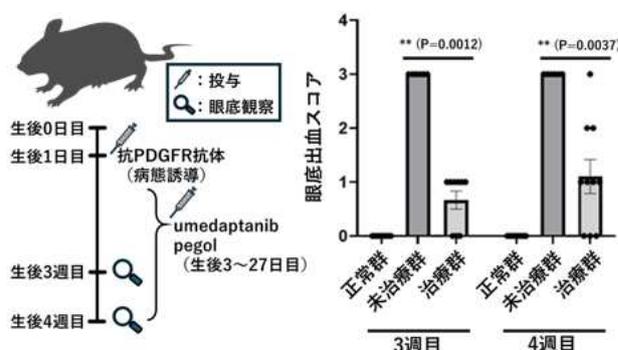
各位

会社名株式会社リボミック
代表者名代表取締役社長中村義一
(コード番号:4591東証グロース)
問合せ先財務経理部長今井利哉
<https://www.ribomic.com/contact.php>

Umedaptanib pegol による糖尿病網膜症モデルにおける治療効果の発見と 新規用途特許出願に関するお知らせ

当社は、umedaptanib pegol (抗 FGF2 アプタマー) による、糖尿病網膜症モデルにおける有望な治療効果を確認し、本薬剤の糖尿病網膜症に対する用途特許の出願を完了いたしました。

糖尿病網膜症は、糖尿病の合併症として発症する視覚障害として知られており、網膜の血管異常や浮腫を伴います。糖尿病網膜症では、網膜血管を取り巻くペリサイト (周皮細胞) の脱落がしばしば観察され、これが血液網膜関門の破綻や微小血管障害、眼底出血の原因となることが知られています。今回の研究では、抗 PDGFR β 抗体を利用したマウス糖尿病網膜症モデルを採用しました。このモデルでは、網膜血管内皮を取り巻くペリサイトが脱落することにより、血液網膜関門の破綻と眼底出血を引き起こす病態が再現されます。umedaptanib pegol を投与した群では、図に示すように眼底出血の発生が有意に抑制されました。この結果は、umedaptanib pegol が血管安定化作用を有し、糖尿病網膜症の進行を抑える効果を強く示唆するものです。



糖尿病網膜症は、糖尿病の3大合併症のひとつで、我が国では成人の失明原因の上位に位置します。糖尿病網膜症の治療薬として、抗 VEGF 薬が用いられますが、その奏効率は限定的なため、新規の治療薬の開発が望まれています。umedaptanib pegol は、当社が米国で実施した滲出型加齢黄斑変性 (wet AMD) に対する第2相臨床試験によって、硝子体内投与による治療効果 (Proof-of-Concept, POC) と安全性が確立しています。そのため、umedaptanib pegol の硝子体内投与による糖尿病網膜症に対する第2相臨床試験を開始することが可能となり、今後当社の臨床パイプラインの拡充と企業価値の向上に寄与するものと考えます。

なお、本件による2026年3月期業績への影響はございません。

以上